

平成31年度推薦入学試験問題

金沢美術工芸大学

学科・専攻名	第2次選考試験問題
芸術学専攻	<p>小論文A（詳細別紙）</p> <p>次に掲げる文章は、三木清による「娯楽について」（『人生論ノート』1941年）の抜粋です。これを読んで、内容を200字程度に要約しなさい。また、筆者の主張に対して、自分の意見を400字程度で述べなさい。</p> <p>小論文B（詳細別紙）</p> <p>配布された作品の図版を見て、何がどのように描かれているかに留意しながら、800字程度で解説しなさい。</p> <p>作品名：ダイヤのエースを持ついかさま師 ジョルジュ・ド・ラ・トゥール（1635年） ルーヴル美術館（パリ）所蔵</p>
視覚 デザイン 専攻	<p>実技試験（詳細別紙）</p> <p>あなたが行きたいところをイメージし、自由に画面を構成してください。</p>
製品 デザイン 専攻	<p>実技試験（詳細別紙）</p> <p>手で持って走れる「水筒」をデザインしなさい。</p>
環境 デザイン 専攻	<p>実技試験（詳細別紙）</p> <p>自身が定めたオノマトペ※を二つの立体を使って表現しなさい。ひとつは任意の七面体、もうひとつは自由な立体とする。制作には配布された素材を用い、台紙（ゴールデンボード）上に配置・構成したのち、画用紙に鉛筆デッサンしなさい。</p> <p>※オノマトペ：音・声・物事の状態や動きなどを音（おん）で象徴的に表した語。</p>
工芸科	<p>実技試験（詳細別紙）</p> <p>与えられた「ピーマン」をモチーフとし、粘土を用いて自由に立体表現しなさい。</p>

※ 第1次選考は書類審査です。

※ 別紙は、試験問題のコピーです。

次に掲げる文章は、三木清による「娯楽について」(『人生論ノート』一九四一年)の抜粋です。これを読んで、内容を二百字程度に要約しなさい。また、筆者の主張に対して、自分の意見を四百字程度で述べなさい。(解答は別紙)

生活を楽しむことを知らねばならぬ。「生活術」というのはそれ以外のものではない。それは技術であり、徳である。どこまでも物の中にいてしかも物に対して自律的であるということがあらゆる技術の本質である。生活の技術も同様である。どこまでも生活の中にいてしかも生活を超越ることによって生活を楽しむということは可能になる。

娯楽という観念はおそらく近代的な観念である。それは機械技術の時代の産物であり、この時代のあらゆる特徴を具^{そな}えている。娯楽というものは生活を楽しむことを知らなくなった人間がその代わりに考え出したものである。それは幸福に対する近代的な代用品である。幸福についてほんとに考えることを知らない近代人は娯楽について考える。

娯楽というものは、簡単に定義すると、他の仕方における生活である。この他とは何であるかが問題である。この他とは元来宗教的なものを意味していた。従って人間にとって娯楽は祭としてのみ可能であった。

かような観念が失われたとき、娯楽はただ単に、働いている時間に対する遊んでいる時間、真面目な活動に対する享樂的な活動、つまり「生活」とは別のあるものと考えられるようになった。楽しみは生活そのものうちになく、生活の他のものすなわち娯楽のうちにあると考えられる。一つの生活にほかならぬ娯楽が生活と対立させられる。生活の分裂から娯楽の観念が生じた。娯楽を求める現代人は多かれ

少なかれ二重生活者としてそれを求めている。近代的生活はそのように非人間的になった。生活を苦痛としてのみ感じる人間は生活の他のものとして娯楽を求めるが、その娯楽というものは同じように非人間的であるのほかない。

娯楽は生活の付加物であるかのように考えられるところから、それはまた断念されてもよいもの、むしろ断念さるべきものとも考えられるのである。

祭は他の秩序のもの、より高い秩序のものと結び付いている。しかるに生活と娯楽とは同じ秩序のものであるのに対立させられている。むしろ現代における秩序の思想の喪失がそれらの対立的に見られる根源である。

他の、より高い秩序から見ると、人生のあらゆる営みは、真面目な仕事も道楽も、すべて慰戯 (divertissement) に過ぎないであろう。パスカルはそのように考えた。一度この思想にまで戻って考えることが、生活と娯楽という対立を払拭するためには必要である。娯楽の観念の根柢にも形而上学がなければならぬ。

たとえば、自分の専門は娯楽でなく、娯楽というのは自分の専門以外のものである。画は画家にとっては娯楽でなく、会社員にとっては娯楽である。音楽は音楽家にとっては娯楽でなく、タイプストにとっては娯楽である。かようにしてあらゆる文化について、娯乐的な対し方というものが出来た。そこに現代の文化の墮落の一つの原因があるといえるであろう。

現代の教養の欠陥は、教養というものが娯楽の形式において求められることに基づいている。専門は「生活」であって、教養は専門とは別のものであり、このものは結局娯楽であると思われているのである。

専門という見地から生活と娯楽が区別されるに従って、娯楽を専門とする者が生じた。彼にとってはもちろん娯楽は生活であって娯楽であることができぬ。そこに純粋な娯楽そのものが作られ、娯楽はいよいよ生活から離れてしまった。

娯楽を専門とする者が生じ、純粋な娯楽そのものが作られるに従って、一般の

人々にとって娯楽は自分がそれを作るのに参加するものでなく、ただ外から見て享樂するものとなった。彼等が参加しているというのはただ、彼等が他の観衆とか聴衆の中に加わっているという意味である。祭が娯楽の唯一の形式であった時代に比較して考えると、大衆が、もしくは純粋な娯樂そのものが、もしくは享樂が、神の地位を占めるようになったのである。今日娯樂の大衆性というものは概してかくのごときものである。

生活と娯樂とは区別されながら一つのものである。それらを抽象的に対立させるところから、娯樂についての、また生活についての、種々の間違つた觀念が生じている。

娯樂が生活になり生活が娯樂にならない。生活と娯樂とが人格的統一に齎もたらされることが必要である。生活を樂しむということ、従つて幸福というのがその際根本の觀念でなければならぬ。

娯樂が芸術になり、生活が芸術にならない。生活の技術は生活の芸術でなければならぬ。

娯樂は生活の中にあつて生活のスタイルを作るものである。娯樂は単に消費的、享受的なものでなく、生産的、創造的なものでなければならぬ。単に見ることによつて樂しむのではなく、作ることによつて樂しむことが大切である。

娯樂は他の仕方における生活として我々の平生使われていない器官や能力を働かせることによつて教養とすることができる。この場合もちろん娯樂はただ他の仕方における生活であつて、生活の他のものであるのではない。

生活の他のものとしての娯樂という抽象的な觀念が生じたのは近代技術が人間生活に及ぼした影響によるものとすれば、この機械技術を支配する技術が必要である。技術を支配する技術というものが現代文化の根本問題である。

平成31年度
金沢美術工芸大学 美術工芸学部 美術科 芸術学専攻
推薦入学 試験問題 小論文B

配布された作品の図版を見て、何がどのように描かれているかに留意しながら、800字程度で解説しなさい。〔解答は別紙〕

作品名： ダイヤのエースを持ついかさま師
作者： ジョルジュ・ド・ラ・トゥール
制作年代： 1635年
技法： 油彩、カンヴァス
大きさ： 縦106cm、横146cm
所蔵： ルーヴル美術館（パリ）

受験番号	
------	--

平成31年度
金沢美術工芸大学 美術工芸学部
デザイン科 視覚デザイン専攻
推薦入試 第二次選考問題（実技試験）

【問題】

あなたが行きたいところをイメージし、
自由に画面を構成してください。

【条件】

- ・あなたがイメージした行きたいところをボードのウラ面の受験番号の下に記入してください。
- ・別紙に制作意図を記入してください。
- ・与えられた用紙（B4 ボード）の全面を使用してください。
- ・縦横は自由とします。
- ・与えられた画材で着色してください。
- ・与えられた下書き用紙にアイデアを何パターンか展開し、すべて作品に添えて提出してください。

【注意】

- ・色見本帳の使用は禁止します。
- ・持参した絵具の使用は禁止します。
- ・試験問題に関する質問は認めません。
- ・問題用紙、下書き用紙は試験終了後、すべて回収します。

以上

平成 31 年度推薦入試 実技試験

金沢美術工芸大学 美術工芸学部 デザイン科 製品デザイン専攻

■問題

手で持って走れる「水筒」をデザインしなさい。

■デザインの条件

1. 使用者や使用目的、使用場所などを想定すること。
2. 「持つ」「水を入れる」「飲む」「洗う」などを考察すること。
3. 造形・素材・色を自由に考えること。
4. 容量は 200ml とする。
5. 与えられた油土を使ってモデル検討を行うこと。

■提出物

1. **最終提案の着彩スケッチ**：B3 サイズ 1 枚
油土で制作した提案モデル 1 点の最終イメージを精密に描くこと。
 2. **使用方法説明図**：A3 サイズ 1 枚
デザインポイントや使い方をイラストや文章で簡潔に表現すること。
 3. **寸法図**：A3 サイズ 1 枚
寸法図及び素材や色彩などについて記載すること。
 4. **アイデアスケッチ**：A3 サイズ 2 枚
異なるアイデアや形、機能などを表現すること。
- ※ 1～4 を別紙のレイアウト図を参照し、スチレンボードにレイアウトすること。
5. **油土で制作したモデルと台紙**
最終提案モデル 1 点とその他検討モデルがあれば提出すること。

■注意

1. 提示したサンプルは参考とし、とらわれなくてよい。
2. この問題用紙も提出すること。
3. 与えられたサンプル、油土、粘土ベラ、粘土板、糸、ビニール手袋などは、試験終了後に全て回収する。
4. 油土をこねる際に大きな音を立てないこと。
5. 油土は糸を使って小さく切ると、こねやすくなる。

受験番号：

平成 31 年度

金沢美術工芸大学 美術工芸学部デザイン科 環境デザイン専攻

推薦入試 第 2 次選考問題

【問題】

自身が定めたオノマトペ[※]（下記の空欄に記入）を二つの立体を使って表現しなさい。ひとつは任意の七面体、もうひとつは自由な立体とする。制作には配布された素材を用い、台紙（ゴールデンボード）上に配置・構成したのち、画用紙に鉛筆デッサンしなさい。

※オノマトペ：音・声・物事の状態や動きなどを音（おん）で象徴的に表した語。

オノマトペ：

【条件】

- ・ 立体は台紙に接着して固定しなさい。
- ・ 立体の面の配色は、配布された素材で自由に設定してよい。
- ・ デッサンはすべてフリーハンドで描きなさい。
- ・ 作品の大きさは台紙の幅・奥行きの範囲とし、高さ 30 cmを超えてはならない。

【注意】

- ・ 問題に関する質問には答えられない。
- ・ デッサンは受験番号を書く欄を裏側とし、表側に描きなさい。
- ・ 立体を配置する台紙（ゴールデンボード）は、受験番号を書く欄を裏面とし、表側に固定しなさい。
- ・ この用紙は試験会場からの持ち出しを禁止し、試験終了後に回収する。
- ・ 制作により出たゴミは、所定の場所に捨てなさい。

平成31年度

金沢美術工芸大学 工芸科 推薦入試

実技試験 (立体表現)

平成30年11月17日(土曜日)

午前8時30分～12時30分

問題

与えられた「ピーマン」をモチーフとし、
粘土を用いて自由に立体表現しなさい。

- 条件1.モチーフの大きさ、個数は自由とする。
- 2.モチーフは自由に加工しても良い。
- 3.解答作品は塑像板から高さ30cm以内とする。
- 4.解答作品は塑像板からはみ出さない事。
- 5.粘土は必要な量だけ袋から取り出して使用すること。

モチーフ ピーマン 3個

配布用具 水粘土1kg×10個、塑像板、粘土ヘラ、霧吹き、鉛筆3本、消しゴム、